

(2) 下地付け

下地付けには、^{しぶ}渋下地と^{さび}錆下地の2通りが行われます。渋下地は、豆柿の渋に^{すみこ}炭粉、^{ぼこり}松煙（松の木を焼いて作った油煙）、または普通の油煙を混ぜ合わせたものを塗り付け、研ぎを繰り返した後で柿渋を塗ります。渋下地は厚くないので、上塗り後2、3年すると上塗り肌にヤセが生じ、独特の味がでます。錆下地は、^{きうるし}生漆にとの粉を混ぜ合わせ、これを塗り付けます。平らでなめらかなじょうぶな下地です。下記の①～⑧までは、渋下地付けのおよその工程です。

(3) 塗り

漆塗りは、^{したぬ}下塗り、^{なかぬ}中塗り、^{うわぬ}上塗りの順序で仕上げられます。上塗りには、^{はなぬり}花塗、^{きじろぬり}木地呂塗が一般的です。花塗は、会津の場合、卵の白味を漆に混ぜています。これによって、漆の流れ、むら、

例 漆塗りの順序（重箱）

- ①^{こくそ}刻苧彫り……木地のつなぎ目などを彫る。
- ②木がため……^{きうるし}生漆を木地にすりこみ、防水性をもたせ、^{くらい}狂を防ぐ。
- ③刻苧かき……刻苧（生漆に木くず粉と飯のりをつぶし混ぜたもの）を彫ったところなどにつめこむ。
- ④^{ぬのき}布着せ……布（または紙）をつなぎ目などに漆のりで張りつける。
- ⑤^{じすみ}地炭付け……目を止めるために、松煙を漆茶碗の中で柿渋でといたものを塗り付ける。
- ⑥^{さび}錆付け……松煙の目を止めるために、うすく錆（との粉を生漆でといたもの）をかける。
- ⑦きず見……ひびやきずを直す塗りをする。
- ⑧^と研ぎかえし……から渋（柿渋になにも混ぜないもの）を塗り、^と石で研ぐ。
- ⑨下塗り……下塗り漆を塗る。
- ⑩下塗り^と研ぎ……^{ほうすみ}朴炭、静岡炭で水をつけて研ぐ。
- ⑪中塗り……中塗り漆を塗る。
- ⑫中塗り^と研ぎ……^と朴炭で水をつけて研ぐ。
- ⑬上塗り……上塗り漆を塗る。

ちぢみなどが防げ、ボツテリとした塗り肌になります。木地呂塗は、木目を生かした塗りかたです。塗りかたは、丸物と板物では違いますが、塗りの勘どころは、ちぢみのできないように塗ることです。ちぢみというのは、漆がのびないでかたまってしまうことです。塗師の筆さばきは、何十年という経験によって支えられてきており、言葉では表現できないといわれています。

(4) 加飾（蒔絵・沈金）

漆器で加飾といえば、蒔絵はその代名詞です。蒔絵は、漆を塗った漆器にさまざまな絵や模様を描くことです。蒔絵をかく人を蒔絵師といいますが、沈金は、漆器の表面に絵などを彫り、そこに^{はく}金箔をほどこすことです。蒔絵はたくさん方法があり、これらの方法は長い間に完成され、会津に伝統的に伝わっています。



重箱